

令和2(2020)年「正覚寺報」3月号

ご案内

お聴聞は如来様のお育てに遇う大切な営みです。皆様どうぞご縁におあい下さいませ。

仏教壮年会お聴聞の会 3月8日(日)20時

2月29日が永代経でしたので、毎月第一日曜のお聴聞の会では日程が連続してしまいます。そこで今月は一週間遅らして3月8日(日)の実施とさせていただきます。当日は、しばらくぶりで安堂芳雅布教使様のお話をお聞かせに与ります。

仏教婦人会例会 3月16日(月)19時半～

春の彼岸会 3月18日(水)14時、19時半

お聴聞で賜るお法りのエピソード

本年一月中旬、老人福祉施設訪問御法話に0老人ホームを訪問し、施設の皆様とご一緒にお内仏様に「らいはいの歌」をあげました。

お勤めが終わり、いよいよ御法話を申し上げようと振り向いて、開口一番「みなさん、いまだここにいらっしゃいますか」とお訊ねしました。

すると、お集まりの皆様から驚きのざわめきが発生しました。思いも寄らないおたずねだったからでしょう。

問いを發した私から見ますと多くはご高齢のお聴聞の皆様の精神は驚く程、研ぎ澄まされていらっしゃると窺われました。短くなった自らの人生が終わるとき、私はどの世界に迎え採られて行くのかについて、清新澀刺としていらっしゃるように見受けられたからです。

なるほど「0老人ホームにいます」では、通り一遍で新鮮味がありませんね。どういういきさつでここに来たのかの道行きがみえませんか。

これから先の行方も明らかではありません。

では何が問われていたのか。

「みなさんと私は、唯今『らいはいのうた』をあげました。すると働いていて下さるのは、阿弥陀様の本願力の働き以外にはありませんね。

すると私たちは如来様のお慈悲の真ん真ん中にいると云えるのではありませんか。

ですので、これからさき何があったとしても如来様のお慈悲一杯の世界、お浄土に間髪を入れず寄せて戴けるではありませんか。

これが私たちが居る現実存在の世界です。

実存主義というのは、二十世紀にハイデッガーとサルトルによって謳われた哲学です。

日本では、西洋哲学の実存主義ということは敢えて申しませんでした。歴史的にも、私達の毎月のお聴聞の世界でも既に当たり前の習慣になっていたからです。

私たちの世界では、毎月のようにお聴聞の会でお出遇いし、お『正信偈』(又は『宗祖讃仰作法』)をご一緒にお上げし、お念仏をし、称えれば直ちに聞こえて下さる「南無阿弥陀佛」をお聞かせに与っています。これこそが、私達が共有してきた現実存在の世界だったからです。

大変有り難いことに、お聴聞の会にご出席の皆様は、日常生活で、朝夕のお内仏様のお参りではお『正信偈』をお上げ下さっており、それが習慣になっているとお聞かせに与りました。祖父母の皆様のお孫さんにも反映し、小学生のお孫さんも毎朝お内仏様にお参りなさってから登校なさるとお聞かせに与りました。

それはとても尊い習慣であります。合掌。